

環境に配慮した取り組み

絶滅危惧種の地域性苗木を育成します

- NEXCO中日本では、経営施策である「地域連携や環境・持続可能社会への貢献の推進」の取り組みの一環として「生物多様性保全」「地域性苗木育成」※1の技術を高速道路以外でも活かす活動を、協議会※2を設立して進めています。
- 協議会では11月に名古屋市内※3で樹木の果実採取を行い、緑化技術センターにて種子の精選と分析を行いました。その結果、次の事が判りました。
- 20種類ほどの樹木の果実（約6Kg）から、苗木の生育が可能である約5万粒の種子が精選できました。
- その中には、レッドデータブックあいち2009で「絶滅危惧1A類（マメナシ）」や「絶滅危惧Ⅱ類（ハクサンボク）」に区分されている樹木も含まれていました。
- 精選した種子は発芽処理を行い、土の入った専用トレイに蒔き、育成を開始しました。

- この活動を通して育成した地域性苗木は、2010年10月に名古屋市で開催されるCOP10のパートナーシップ事業などで、名古屋市内に植栽する計画です。（計画では全体で約1000本の地域性苗木を植えます）
- 当社は今後も引き続き、自然環境に配慮した道路（エコロード）づくりを進めながら、COP10を応援いたします。



2009年11月
採取状況



採取した果実
（マメナシ）



精選した種子

※1 高速道路が通過する地域に自生する郷土種樹木から種子等採取して、緑化技術センターで育成した苗木のこと

※2 活動を行う協議会のメンバーは「なごや東山の森づくりの会」、「戸田川みどりの夢くらぶ」、「なごや森づくりパートナーシップ連絡会」のNPO団体と環境省中部環境パートナーシップオフィス、名古屋市緑政土木局、財団法人名古屋市みどりの協会、NEXCO中日本

活動内容は、名古屋市内の公園などで採取した郷土種樹木の種などから、地域性苗木を当社にて育成して、名古屋市内の緑地に植えるもの

※3 採取場所は守山区の八竜緑地と千種区のなごや東山の森など

